

平成27年度 子どもゆめ基金 体験の風リレーションシップ事業
 鹿屋体育大学との連携による
おおすみくん家スポーツキャンプ
 ~ バスケットボール編 ~

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき，コミュニケーション能力の向上によるチームづくりや，青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上を図ることにより，青少年の自立を支援する。また，事業を通して子どもゆめ基金の普及啓発を図る。
- 2 共 催 国立大学法人 鹿屋体育大学
- 3 期 日 平成28年1月23日（土）～24日（日）
- 4 対 象 者 中学校のバスケットボール部員及び指導者
- 5 募集定員 5チーム（60名程度）
- 6 参 加 者 1チーム 20名
（中学生：17名 引率指導者等：3名）
- 7 指 導 者 国立大学法人 鹿屋体育大学准教授 木葉 一総 氏
国立大学法人 鹿屋体育大学バスケットボール部員
国立大隅青少年自然の家職員（生活指導等）

8 日程と主な活動

日	時間	活 動 内 容	日	時間	活 動 内 容
1 月 23 日 (土)	9:00	受付（鹿屋体育大学）	1 月 24 日 (日)	6:00	起床・準備・清掃
	9:10	出合いのつどい		7:00	朝のつどい
	9:30	練習 1		7:30	朝食
	12:00	昼食		8:15	荷物移動・退所点検
	13:00	練習 2		8:40	鹿屋体育大学へ移動
	16:30	練習終了		9:00	練習 3
	17:00	おおすみくん家へ移動		12:15	別れのつどい
	17:20	オリエンテーション		12:30	解散
	18:00	入浴			
	18:40	夕食			
	20:00	講義（指導者）			
20:00	学習の時間（生徒）				
22:00	就寝				

9 事業運営について

鹿屋体育大学 木葉先生に助言いただきながら，指導内容や練習方法についてプログラムを計画した。



10 事業の実際

- (1) 練習前に引率教員と打合せを行い、チームの現状および課題についての情報を得たのち、大まかな練習の方向性を共有した。
- (2) 全体でのウォーミングアップでは、遊びの要素をふんだんに取り入れ、またボールを用いたメニューも取り入れるなど、バリエーションをもたせた。
- (3) ボールの扱い（ハンドリング）や、ステップなどの基礎的なトレーニングを複数紹介し、一人一人が普段行える練習内容の工夫を行った。
- (4) 鹿屋体育大学バスケットボール部の学生が、小グループにつき、参加者に見本を示し、丁寧なアドバイスを与えながらトレーニングを行った。
- (5) 練習メニュー毎に、木場先生が全員を集め、大学生を見本に、トレーニングの意図や注意点などについて説明を行った。
- (6) 大学生とのミニゲームを行い、判断のスピードや位置取りの違いを肌で感じ取ることができ、より実践的なイメージを持つことができた。
- (7) フォーメーション練習では、ボールを持っていない時の動きについて、時にはプレーを止めながら丁寧な指導が行われた。
- (8) ウォーミングアップ同様、クーリングダウンについても入念に行い、故障予防のために必要な身体のメンテナンスについて意識啓発を行った。
- (9) 降雪に伴い、帰りが夜になってしまうと道路凍結のおそれがあることから、当初夕方までの予定だったが、早めに練習を切り上げ、12時30分解散に繰り上げた。

11 成果

鹿屋体育大学との連携により、質の高い指導を受けることができた。また、選手にとってはバスケットボールに対する意欲をさらに高めることができた。

参加者2人に対して大学生が1人つき、個別の課題に対応した丁寧な指導を行うことができ、また参加者も大学生と打ち解け、楽しみながらスキルアップを図ることができた。

ミニゲームを取り入れることが、参加者にとって大きな刺激になったようで、「自分に足りない部分が明らかになった。」という声が多く聞かれた。

